



2.播種・定植

1か所に2~3粒まき、1cm以上の覆土をして下さい。その後、間引いて本葉が2~3枚になったところで1本立ちにして下さい。

3.管理のポイント

- 側枝が伸び始めたところに、カリ成分の多い化成肥料を適量施用して下さい。
- 窒素過多になると、ツルボケ状になり莢のつきが悪くなるので、畑が乾いたら適宜灌水を行って下さい。
- 子房柄が土中に伸びるので、土寄せを必ず行って下さい。

4.病害虫

窒素肥料が多いと、株が茂りすぎて風通しが悪くなり、病害虫が発生しやすくなります。褐斑病、コガネムシやアブラムシ類などの発生に注意して下さい。ラッカセイだけでなく、インゲンやエダマメなどマメ科作物の連作は避けます。

5.収穫

莖葉が黄変し、下葉が枯れたら収穫適期です。試し掘りして、莢に網目が入り肥大しきっているところに完熟収穫し、数日畑に広げて日干して下さい。完熟収穫の約20日前、莢がほぼ肥大したところに掘り上げ、子実を莢ごと塩ゆでして、実をとり出して食べることもできます。種子用に使う場合は、莢つきのまま貯蔵し、播種前に莢からとり出すようにして下さい。

次回(4月号)は... 水稻育苗・野菜の管理

土では5cm前後になるよう植付けて下さい。

ジャガイモは、平均気温が7~8℃になる3月中~下旬頃に植付け適期になります。ジャガイモは地温の低い頃に植えると、芽の伸びが遅れたり、発芽が不揃いになって初期生育が極端に劣ります。逆に植付けが遅れると、施肥を十分にいても、イモ数が少なかったり、小さくなってしまいますので、適期植付けが大切です。

5.病害虫防除

最も相談が多いのは、「収穫したイモの肌がきたないが、どうすれば美しくなるのか」、ということです。これは、「そうか病」という土壌病害に罹病したり、ケラやコガネムシ等土中に生息する幼虫の食害のためです。

そうか病が多発する圃場では、植付前にフロンサイド粉剤を1a当たり3kg(全面に施用する場合)土壌混和して下さい。

アブラムシ防除のため、植付前にジェイエース粒剤を1a当たり400gを条散布して下さい。ケラやコガネムシの幼虫にも効果があります。

★落花生

1.圃場準備・施肥

1㎡当たり石灰質資材を150~180g、完熟堆肥3kg、基肥を60gを施用する。畝間60~80cm、株間30~35cmを目安とする。石灰が欠乏すると空莢が出やすくなる。

株全体の日当りをよくし、苗の徒長防止に努めて下さい。

晴天日には苗床のトンネルを早めに開放し、高温防止に努めて下さい。

低温に遭遇したり、過度の乾燥は、奇形果の発生や雌花の着生不足、生育遅延の原因になるため、夜間の最低温度はメロン類・スイカは15℃、キュウリは13℃、トマトは12℃を目安に温度管理を行って下さい。

定植後の環境条件に耐えられるように、定植予定日の1週間前からは、苗床の温度を下げ、過剰な灌水を控えて下さい。

2.定植準備と定植前の温度管理

堆肥等の有機物や石灰質資材は遅くとも定植2週間前までに、基肥は遅くとも定植7日前までに施用し施用資材と作土を十分に馴染ませて下さい。

地温を高めて根の活着を良くするため、内張りカーテン、トンネル、マルチ等は定植1週間前までに敷設し、地温の上昇に努めて下さい。

作土が乾燥している場合は、灌水による地温の低下を防ぐため、定植2~3日前に灌水を済ませ、定植日までに地温の回復に努めて下さい。

3.定植

果菜類の定植適期は、キュウリ、スイカ、メロン類が本葉3~5葉期、トマトが一番花の開花時になります。

低温時に無理して定植すると、活着が悪く、初期生育が劣り、とくにウリ科は雌花の着生が遅れます。したがって、定植は晴天日の午前中に行い、ハウスの気温が低下し始めるまでにトンネルを被覆して、保温に努めて下さい。

定植後の初期生育を良好にさせるため、定植時の地温は、トマト、プリンスメロンは15~16℃、スイカは16~18℃、キュウリ、自根メロン類は18℃が必要です。

定植後の灌水は、多量灌水による地温の低下を避けるため、鉢土と本圃の土が馴染む程度の手灌水を行って下さい。

露地野菜 ★ジャガイモ

1.種イモ選び

種イモ選びはジャガイモの植付けに最も大切な作業です。近年、従来の男爵やメークインの他に、早生や晩生種、イモの表皮や果肉、花色が彩り豊かな品種が園芸店やホームセンターで見かけるようになりました。種イモを選ぶ際は、生産元が明らかで、芽が伸び始めており、外皮に傷のない健全な種イモを求めて下さい。

2.圃場準備・施肥

畝立て前に、1a当たり堆肥100~200kg、あさひ4kgを全面施用し、作土と十分に混和後、畝立をして下さい。

石灰質資材は、土壌pHが5.0以下の強酸性土壌では必要ですが、通常はあまり施用しないで下さい。また、ようりん等のリン酸質資材も施用しないで下さい。土壌が中性~アルカリ性になると、後述する「そうか病」が多発しやすくなります。

3.種イモの切断

種イモは、2~4芽がつくように40~60gの大きさに切って植付けるのが理想ですが、70~80gの種イモは2個に、80~100gあれば3~4個に切断して植付けて下さい。

4.植付け法・植付け適期

畝幅は70~75cm、株間は25~28cmを基準に植付けます。覆土は砂壤土等の軽い土では8cm前後、粘土質の重い

水稻育苗・管理のポイント

昔から「苗半作」と言われながらも、年々「育苗の簡略化・省略化」が進み、基本技術から懸け離れた苗作りが行われていることがあります。「健全な苗作り」こそが、おいしく高品質な米を安定して収穫するための第一歩と認識して、原点に戻って適切な苗作りを心掛けて下さい。

育苗計画

育苗日数は、播種時期が早いものは長く、コシヒカリなどの遅いものは短めに計画を立てて下さい。

栽植密度は60株/坪、植え付け本数は3~4本/株を目安に、必要な育苗箱数や準備する種子量を計算して下さい。なお、播種量は乾粉で150g/箱が基準量です。

育苗ハウスの準備

ハウスは事前に、①サイドは全開できるようにし、②防鳥網と③防風ネットを張っておいて下さい。

ハウスの床面を均平にし、育苗箱がガタつかないようにして下さい。箱が浮くと培土が乾きやすく、苗の生育が不揃いになります。

育苗管理は温度管理と水管理に尽きます。適正温度管理のためにハウスの内には必ず温度計を設置して下さい。

種子の準備

通常は、消毒済種子を使用しますが、消毒していない種子の場合は、種子消毒を行って下さい。

浸種

不適切な浸種や催芽は育苗失敗の原因の一つとなります。基準どおり確実に実施することが重要です。

例えば、浸種期間が短かったり、水温が高すぎると吸水が不十分となり、発芽勢の高い籾だけ芽が伸びて、催芽が不揃いになりやすいので注意が必要です。

浸種は停滞水中で行います。河川やため池の水は雑菌が多いので使用せず井戸水または水道水を使用して下さい。

浸種開始から3日間は水を取替えず、その後は2日ごとに交換します。

浸種期間は水温15℃の場合、7日間が基準ですが、ハナエチゼンはやや長めとして下さい。また、水温は20℃以上にならないように注意が必要です。

催芽

温度は30℃で24時間程度置き、鳩胸状態で揃えます。芽や根を伸ばしすぎると播種時に引っ掛かり、均等に播種できないので注意して下さい。

播種・出芽

播種量は乾燥粉で150g(催芽粉で188g)が基準ですが、コシヒカリはやや少なめとして下さい。

密植、高温、多湿の条件下で行われる箱育苗は病原菌の活動に好適な環境を与えているため、いったん発病すると急激に蔓延し、被害が増大します。発生してから防除では手遅れになるので、播種前後(覆土前)に予防のためタチガレエースM液剤またはダコレート水和剤の希釈液剤を1箱あたり500cc灌注して下さい。

出芽は病害の発生、蔓延防止のため育苗器の温度は上げすぎず、30℃を超えないようにして下さい。

施設野菜 ★果菜類の管理

1.育苗後半の管理

充実した苗に仕上げるため、早めにポットの間隔を広げて

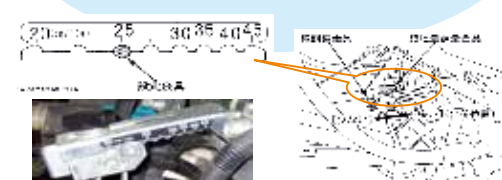
組合員の皆様へ

施肥量の調整方法

クボタ田植機

施肥量調量金具をゆるめ、施肥量を調量目盛に合わせ金具を締め付ける。

微調整...施肥量調量金具をゆるめ微調整金具を回し、ピンの位置をずらして調整する。



中セキ田植機

繰り出し調節ハンドルにて施肥量を目盛に合わせ。(繰り出し調節ハンドルを一回転回すと施肥量が約1kg程度増減する)



●化成肥料は、エコ肥料より比重が重く、側条施肥機で施肥する場合には、肥料が入りすぎることがあるので注意が必要です。

(参考)従来の化成肥料の比重:0.9程度、エコファーマー用肥料の比重:0.7~0.8程度

●下記の肥料用の開度表を目安に設定して下さい。

なお圃場・機械の状況により施肥量が変動する場合がありますので、あくまでも目安として開度調整をお願いします。

農機メーカー	品 種	肥 料 名	比 重	開 度					
				30	40	50	60	70	
クボタ	移植用	ハナエチゼン	早生用一発522	0.80	23	31	39	46	54
		コシヒカリ	エココシ	0.76	22	29	36	43	51
		あきさかり	中晩生一発522	0.84	24	33	41	49	57
	直播用	ハナエチゼン	早生用一発522	0.80	23	31	39	46	54
		コシヒカリ	エココシ 直播	0.76	22	29	36	43	51
		あきさかり	中晩生一発522 直播	0.84	24	33	41	49	57
分施用	全品種	新エコ元肥	0.83	25	33	41	49	58	
中セキ	移植用	ハナエチゼン	早生用一発522	0.80	27	35	44	53	62
		コシヒカリ	エココシ	0.76	23	32	39	45	53
		あきさかり	中晩生一発522	0.84	27	36	45	53	62
	直播用	ハナエチゼン	早生用一発522	0.80	27	35	44	53	62
		コシヒカリ	エココシ 直播	0.76	23	32	39	45	53
		あきさかり	中晩生一発522 直播	0.84	27	36	45	53	62
分施用	全品種	新エコ元肥	0.83	25	36	43	51	59	

※数値はあくまでも目安であり、実際の施肥においては圃場・機械の状況により施肥量が変動する場合があります。

※上記以外のメーカーについては購入された営業所へ直接お問い合わせください。

詳しくはJAの農機センターもしくはメーカーまでお問い合わせください。